

大阪・若江遺跡

- 1 所在地 大阪府東大阪市若江本町・北町・南町
- 2 調査期間 一九八〇年(昭55)十月～一九八一年(昭56)二月
- 3 発掘機関 東大阪市教育委員会・勸業大阪文化財協会
- 4 調査担当者 阿部嗣治
- 5 遺跡の種類 城郭跡・寺院跡・集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期～安土・桃山時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東南部)

若江遺跡は、旧楠根川(現在の第二寝屋川)が形成した沖積平野上に位置する弥生時代後期から安土・桃山時代の複合遺跡で、標高約五mである。古くから歴史上有名な若江城・若江寺が存在している所として著名である。遺跡は、一九三四年楠根川改修工事の際に多量の弥生土器、土師器、須恵器、瓦などが出土したことによって知られるようになった。

発掘調査は、一九七二年に若江小学校校舎増築に伴う調査を実施して以来、現在まで国庫補助事業・下水道管渠築造工事・府道四条～長堂線拡幅工事などに伴う調査をほぼ毎年実施し、その調査総面積は約六〇〇〇㎡に及んでいる。これらの調査により、若江城の堀・壁基壇・礎石・井戸・溝、あるいは中世集落に伴う井戸・溝・土壇・ピットなどの遺構を数多く検出しており、若江城・中世集落の様相は徐々に解明されつつある。

木簡は、一九八〇年の調査で検出した若江城の堀内より出土した。検出長約一〇〇m、検出幅約九m(堆定幅約一二m)、深さ約二mを測り、二段掘りを行なっている。埋土・堆積土の状況から見て短時間に埋められたと思われる。遺物は、土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・瓦・木製品・金属製品などが多量に出土しており、最も新しい遺物は、一六世紀後半である。木簡はこれらの遺物に伴って堀の底にはり付いた状況で出土している。

このように現在まで検出した遺構・遺物は、若江城の規模・構造あるいは城内生活を探る上で貴重な資料であると言える。

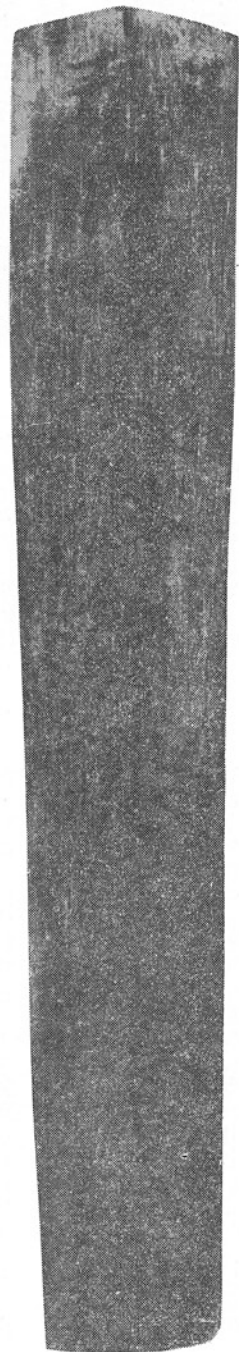
8 木簡の釈文・内容

「奉轉讀大般若經難信解品之砌也」

『正月三日』

180×29×5 0.1

木簡の右下半に墨書の痕跡が認められるが判読不可能である。しかしながら本木簡と同様の木簡が出土している広島県福山市草戸千



軒町遺跡の例を見ると同位置に年号の墨書があること、本木簡左下半に月・日の墨書があることから見れば、右下半には年号の記載があったと思われる。

9 関係文献

- 下村晴文 勝田邦夫 『若江寺跡・若江城跡 東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概報15』(東大阪市教育委員会) 一九七五年
- 勝田邦夫 新田洋 『若江城跡』(『若江城跡 北島池遺跡調査報告』東大阪市遺跡保護調査会) 一九七五年
- 福永信雄 「公共下水道第16工区管渠築造工事に伴う若江遺跡の発掘調査」(『調査会ニュース』№9 東大阪市遺跡保護調査会) 一九七七年
- 芋本隆裕 「若江遺跡」(『鬼塚遺跡Ⅱ・若江遺跡発掘調査報告 東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概報19』東大阪市遺跡保護調査会) 一九七九年
- 勝田邦夫 「若江遺跡」(『縄手遺跡・瓜生堂遺跡・若江遺跡・額田寺

跡 東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概報21』 東大阪市教育委員会) 一九八〇年

阿部嗣治 上野利明 勝田邦夫 『若江遺跡・山賀遺跡発掘調査概報』(『東大阪市遺跡保護調査会発掘調査概報集一九八〇年度』東大阪市遺跡保護調査会) 一九八一年

阿部嗣治 「若江遺跡の現状と展望」(『調査会ニュース』№20 東大阪市遺跡保護調査会) 一九八一年

下村晴文 上野利明 『半堂遺跡・若江遺跡発掘調査概報 東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概報23』(東大阪市教育委員会) 一九八二年

阿部嗣治 勝田邦夫 ほか 『若江遺跡発掘調査報告書Ⅰ遺構編』(東大阪市遺跡保護調査会) 一九八二年

(阿部嗣治)